

令和3年度 県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会 開催報告

- 1 趣旨 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションを通して、県立学校における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。
なお、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、当研修は、動画配信によるオンデマンド研修として実施とする。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 （主に県立学校関係者を対象とする）
 - （1）県立高等学校教職員、県立特別支援学校教職員
 - （2）県立学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
 - （3）各市町担当職員
- 4 実施方法および期間
 - （1）配信期間 令和3年7月20日（火）～8月31日（火）
 - （2）方法 公開期間を限定した動画配信によるオンデマンド研修
- 5 内容
 - （1）講演演題：「高校におけるコミュニティ・スクール～持続可能なしくみの実現～」
講師：大阪府立富田林中学校・高等学校
校長 大門 和喜 氏、首席 永岡 佳典 氏、教諭 藤森 卓磨 氏
 - （2）県立CS導入校関係者を交えてのパネルディスカッション
テーマ：「県立学校における地域と学校の連携・協働について」
パネリスト：県立学校CS導入校関係者4名
 - ・安藤 清代 氏：CSアドバイザー
(草津養護学校 現学校運営協議会委員、元校長)
 - ・中澤 成行 氏：能登川高等学校長
 - ・平野 宏文 氏：甲南高等学校長
 - ・山田 薫 氏：CSアドバイザー（元 伊香高等学校長）
- 6 動画視聴数
 - （1）講演：119回
 - （2）パネル・ディスカッション：（前編）96回 （後編）61回

7 講演・パネルディスカッションの概要

講演では、大阪府立富田林中学校・高等学校のコミュニティ・スクールとしての考え方や取組を中心にお話しいただいた。産学官協働を意識した教育活動に取り組まれ、学校運営協議会では教職員の負担軽減についても考慮されながら、学校運営協議会委員やCSコーディネーターによるサポートのもと、「総合的な探究の時間」において出前授業やフィールドワーク、講演などが実施されていることを紹介していただいた。



パネルディスカッションでは、県立学校でコミュニティ・スクールの導入・推進に携わってこられた元校長・現役校長に加え、これから導入を検討しておられる校長先生にお話しいただいた。各校で導入に至った経緯や取り組んでこられた内容、ご苦労いただいたことなどを具体的に説明され、学校運営協議会の委員選定やコミュニティ・スクールを導入するにあたっての考え方についてもご教示いただいた。

8 参加者のアンケートより

- ・学校運営協議会の委員さんとのつながりを含めて、多数の企業連携があることに驚きました。そのことを産学協働の取組として様々な形式で依頼されていることに感心させていただきました。
- ・コミュニティスクールが各校の課題を解決していくために有意義であること、様々な教育活動と結びつけていくことで、相乗効果が期待できることがよくわかりました。
- ・学校運営協議会委員及びCSコーディネーターのサポートにより、円滑に地域学校協働活動が行われていることが伝わってきました。始めるときは気持ちの負担が大きいかもしれないが、いざ、初めて見ると企業からも生徒からも、教員からもプラスになる活動が作り上げられることを学んだ。
- ・教員の困り感を伝えるところから始まり、校内・校外問わず多くの人材を活用し、現状を変革されていることに勇気づけられました。
- ・「生徒が主体的に活動できる場を見出せる」ことを目標の一つとして、学校・地域・関係機関が一丸となって新しい教育力の構築に向けてスクラムを組むことはたいへん意義深いと思った。
- ・コミュニティスクールの取組を進めるためには、「地域の活性化」と同時に「生徒を地域で育てる」という有用性について、教職員の共通理解が必要なことがわかりました。
- ・今後に向けての持続可能な取り組みに対して、どのようなことが必要であり肝要であるかを教えていただいたが、そのことは今現在の活動の原点にもなることを改めて考えさせられた。
- ・地域とともにある学校づくりを進めていこうという点は本校と共通しているが、総合的な探究の時間の取組内容と上手にリンクさせながら、地域連携を進めていくのがよいと再認識できた。